



田辺 久美子

TANABE KUMIKO

1997年 柏崎市高柳町出身
2018年 和工房 花手毬 -hana temari- を始める

忙しい日々は充実しているけれど、新しいことを始めたい、趣味を持ちたい。そんな方たちにぴったりなイベント「おけいこマルシェ にいがた」が今年も開催される。西方寺をまるごと使って楽しめるイベントは、草木染、ハーバリウム、チェコビーズアクセサリー、カメラ機能の講習&撮影会、ビューティーレッスン、茶道体験等々。子供と一緒に手作りできる体験や雑貨販売、絵本ルーム、カフェやインドネシア料理などの飲食ブースもある。

このイベントに昨年から出店している「和工房 花手毬 -hana temari-」では、水引を使ったオリジナルしおり作りを体験できる。講師は市内高柳町出身の田辺久美子さんだ。

幼い頃から家族で着物を着る機会が多かった、と話す田辺さん。そのせいか、自然と和小物にも目が向くようになり興味を持った。元々手先が器用で作ることが好きだった田辺さんが最初に始めたのは「つまみ細工」、自身の成人式の髪飾りにと制作した。3cm角や2cm角に切った布を折りたたんで小さな花びらを作り、1枚1枚を重ねていく工程はとても手間がかかる。花びらのバランスや色合わせ

を考えて作られた作品は本当にきれいだ。

そして兄から、結婚式の席札代わりに付ける小瓶のお酒に掛ける水引を作ってほしいと依頼され、水引細工を始めたのが1つの契機になった。お酒に掛けられた水引は好評で自信にもつながった。そんな時に「おけいこマルシェ」を主催する桑田紗知さんから声が掛かり、田辺さんは「和工房 花手毬 -hana temari-」として活動をスタートさせた。

水引細工は、基本の「あわじ結び」を作り、そこからいろいろな結び方にアレンジしていくのだが、水引は意外にも硬くて力がある。素材もフィルムが巻いてあるものや糸を巻いたものなどあり、色も様々。作るものによって3本、4本、5本と重ね、色の合わせ方によって印象が驚くほど変わるところも大きな魅力になっている。田辺さんの作品には、高柳町門出の和紙に水引を添えたポチ袋、イヤリングやピアスなどアクセサリーもあり、水引細工の多様性、可能性を感じさせるものも多い。現在はイベントでの販売やワークショップが中心だが、ネットでの販売も視野に活動を広げたいと前向きだ。

さらに、「今後は高柳に伝わる、わら細工やすげ笠、つる細工など手仕事の継承にも取り組んでいきたい」と目を輝かせる。田辺さんの今後の活躍に期待し応援していただけたらと願う。



お問い合わせ

和工房 花手毬 -hana temari-
TEL 080-2013-3118

